

# 全国 YMCA ユースチャレンジプログラム 2020 報告書 「山梨ユースリーダーシップフォーラム 2021」

## My C. (山梨 YMCA)

### 1. プロジェクト概要と実施内容

#### ① ジェンダー、多文化共生を切り口に「多様性」について学ぶ参加型ワークショップ

アルベルト・アルバカーキ氏（山梨学院大学グローバルラーニングセンター准教授）と日本人学生のファシリテーションによる英語ワークショップを行った。多文化共生の場における、文化的な摩擦を体験するカードゲーム「バーンガ」で、日常生活の場面で感じるコミュニケーションの不一致やその対応について、グループで話しあった。



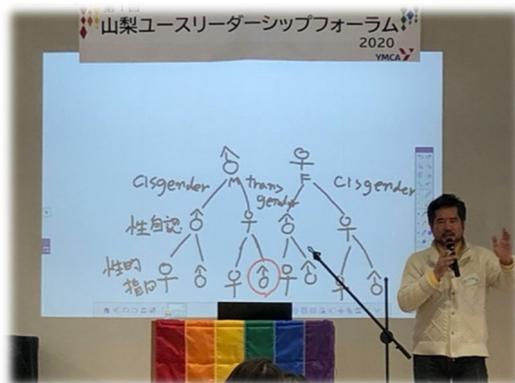
#### ② 問題解決のためのグループワーク

ワークショップの後、それぞれのグループで、他者とのコミュニケーションの場面で感じる違和感、差別体験など個人のストーリーを語り合い日常の中に潜む差別や、そのもとになっているステレオタイプ、コミュニケーションを阻害するさまざまな要因について自分のことばで語り合った。その後、これらの体験を劇にして、各グループで発表しあった。

#### ③ 基調講演

##### 1 日目

午後は、川和教会牧師 平良愛香牧師による基調講演を行った。沖縄生まれのご自身の背景をもとに、男性同性愛者としてのライフストーリーを語りながら、家族や身近な人たちへのカムアウト、その後のキリスト者としての歩みについて語って下さった。また、ジェンダー・



セクシャリティーの用語についても詳しく解説を交えながら、ジェンダー・セクシャリティ

ーについて「自分のこと」としてとらえることばの感覚を学んだ。

何らかのマイノリティーとしての当事者性と同時に、無自覚に別のマイノリティーを差別してしまう構造や、自らの意識にも敏感であることの大切さを学んだ。

#### ④プログラムを振り返って講師を交えたオンラインワークショップ

2日目はコロナ対策のため、対面でもプログラムを変更し、オンラインによるワークショップを行った。1日目のワークショップと基調講演をもとに、参加者が自由に語り合うフリートークの形をとった。講師の平良愛香牧師が参加して下さり、前日の基調講演では聞けなかったことについて参加者がざっくばらんに質問をし、講演の内容をさらに深めるひとときとなった。

## 2. このプロジェクトを通じて考えたこと

自分たち 5 人は現役大学生でもあり、普段は学校での学びがあり、試験があり、フォーラムの準備期間は苦しく、辛い時もありました。ですが、5 人それぞれができることをやって、できないことは補い合って、スタッフのお二人にも頼らせていただいて、これこそ「思いやり」「協力」「多様性」なんだと感じながら活動をしていました。また、フォーラム内で大きく取り上げた「多様性」は、本当に様々な部分で存在し、必要になると改めて気づくことができました。「多様性」を大事にとは口で言えても、行動に移せなかったり、自分では大事にしているつもりでもできていなかったりと 1 人では気づくことの出来ない、想像できないような意見や考えが多くありました。このフォーラムでは実行委員でしたが、参加者の皆様から学ぶことが多く、とても刺激を受けました。実行委員として様々な事に目を配りながらフォーラム当日も動いていましたが、いつの間にか私もいち参加者として参加している気分になってしまいました。それくらい自分にとって心残る学びや、発見がありました。また、フォーラム全体を通してまたひとつ自分の中で大切にしたい考えができました。それは「【どうなりたいか】だけではなくて、【どのような場所でどのように生きるか】の多様性を必要としたい」ということです。どうなりたいかというひとつの大きな漠然とした考えだけではなくて、自分が自分らしくなれるそれぞれの場所で自分がどう生



きていくか選択できる、選択がある 社会を作っていきたいと感じました。これからどのような活動をしていくか予定は分かりませんが、My C.として活動は続けていく ために定期的な集まりを行いつつ、また継続してフォーラムを行いたいです。その際は、またご縁があれば My C.としても、一個人としても YMCA さんのお力添え をお願いしたいです。

### 3. 今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイス



なぜその企画を実施しようと思ったのか、実施した後どのように今後の活動につなげていきたいかを明確にしてから応募することが大事だと思います。また、応募用紙を作成するにあたって、企画の背景や概要、目的等を細かく記載するため、自分たち自身も改めて企画に込める思いや、どんな気持ちを持ってこれから取り組むのかといったことを考え直す時間にもなりました。その時間のおかげで企画内容についてさらに学びが深められ、ユースチャレンジで助成金をいただけただけではなく、より良い学びを得ることができると思います。そして

ユースチャレンジの助成金をいただけるか、いただけないかも重要ですが、応募すること自体に意味があり、何かを始める、新しいチャレンジをしようといった気持ちを尊重し、ユースチャレンジを通して同盟の方々をサポートして下さるため、遠慮なく自分たちがしたいことをことばにして伝えて欲しいとおもいます。

